

## ウガンダ支援交流の報告

安房の高校生と市民によるウガンダ支援交流は 28 年目を迎えました。コロナ禍では例年通りに支援バザーを開くことは難しかったものの、「安房・平和のための美術展」や「ウガンダコーヒー月間」キャンペーンなどによる支援金により、CUFI に約 1,000 ドル送金することができました。

2022 年 6 月には、安房西高校文化祭で JRC 部がウガンダ支援バザーに取り組み、ウガンダコーヒーやアフリカ布を使ったハンドメイドのエプロンやバッグなどを販売しました。秋には館山総合高校でもウガンダコーヒーの販売が予定され、支援の輪がさらに広がっています。

### <支援金御礼のメッセージ>

日本の友人の皆さんへ

2021 年 12 月、皆さんから CUFI (ウガンダ意識向上協会) への支援金を受け取りました。私たちに贈られた多額の支援金を募ることに貢献下さった皆さんに、感謝を申し上げます。

長期間におよぶロックダウンを経て、国や産業、学校などの再開が期待されるクリスマスの時期に、支援金をいただき大変役立ちました。

新年を迎えるにあたり、最も困窮している北部のメデ村の孤児、未亡人や老婦人たちに、ポシヨ (コーンフラワー)、豆、新鮮な果物といった食糧と、清潔な衣類などを届けることができました。希望もなく空腹であった多くの人々に、なんとか笑顔を与えることができました。

心温かいご支援に改めて感謝するとともに、皆さんに神のご加護を。

2021.12.28

CUFI スチュアート・センパラ



### <コロナ禍のウガンダ>

ウガンダでは、脆弱な医療体制に加え、収入の手段を失った人が多く、深刻な貧困が蔓延しており、COVID-19 感染の前に飢餓のリスクも心配されています。

政府は 2020 年 3 月にロックダウンを敷き、学校も休校になりました。生計と経済に深刻な影響を及ぼし、とくに低所得者に打撃を与え、貧困層の脆弱性を高めました。パンデミックは、多くの人をより貧困な状態に陥れ、その結果、家庭内暴力、自殺、精神疾患などをもたらしました。

CUFI では弱い立場の方たちに、食糧や医療ケアが届くよう、手を差し伸べています。

### <ウガンダの子どもたちの状況>

ウガンダにおける休校は約 2 年間におよび、世界で一番長いと言われました。COVID-19 の蔓延による貧困、早期の望まない妊娠と結婚、児童労働の増加で、学校を中退せざるを得ない子どもたちが増えました。年齢を超えてしまったために、入るべきクラスに入れなことがわかり、希望を失ってしまった子どもたちもいます。家族を支えるために収入を得なければならず、雇われ口を探している子どもたちもいます。また学校に戻ることを望んでいるにもかかわらず、厳しい貧困や家事労働のために、学校に戻れない子どもたちもいます。

CUFI が支援する子どものなかには、事件に巻き込まれたのか、一人の少女が行方不明になっており、再び元気に会えることを祈りながら探し続けているところです。また、2022 年 1 月に学校が再開したので、学びの機会を守るために、寄宿学校に入る子どもたちを送り届け、学費・学習用品の支援も行いました。